



焚火程度で3時間、簡単に出来る野焼を紹介します。

材料

作品の粘土（テラコッタ土80%
：14メッシュシャモット20%で練り合わせる）

古材（柱は太すぎてダメ）

古畳（畳屋さんでもらう）

ブロック（無くても良い）

場所（焚火が出来る程度の広さ、穴は掘らない）



- ①材料をそろえる。②30分ぐらい焚火をして地面を暖める。③その間に畳はカッターナイフでほぐす。
消火用の水用意。 ※作品を火の周りにおいてあぶる。



- ④オキを広げる。⑤太めの薪をひき作品を乗せる。⑥15分あぶる。



- ⑦細い薪、古材板をかぶせる。⑧藁をかぶせ火を点ける、畳1枚分を分けて焚く。



⑨ 2時間放置。



⑩ うれしい窯出し。



藁を使う理由は、稲科の植物の特徴で、灰が崩れにくいことにあります。布団のように薪と作品を被い、放射熱を遮断し内部の熱を高めます。河原で野焼きをするなら茅を刈り取り利用する手もあります。

藁が無い場合は薪を多くし、古トタンをかぶせてもよく焼けます。

野焼のポイント

☆穴を掘る必要はありません。

☆薪に使う古材は、垂木以下の太さで。柱は燃えるのに時間がかかり、ベニヤは早く燃えすぎ、共に不向き。

☆②で、作品を火の周りに置き予熱すること。この回では電気窯で100℃に予熱した。

☆火事に備え水、消化器などを用意して、その日の内に後始末を。

☆トラブルを避けるため、事前に近所に声を掛け、消防署に届けを出しておく。

☆きれいな藁灰がとれるので、釉原料に最高です。